

研修報告書 N0.6

所 属：国立国際医療研究センター病院 研修医
研修先：特定医療法人長生会 大井田病院
医療法人聖真会 渭南病院
宿毛市立 沖の島へき地診療所

雄大な自然に育まれた城下町、宿毛市。開院 100 年の歴史の中、地域住民の健康を守り、地域医療を守り続けてきた伝統ある大井田病院で、私の地域研修は始まりました。そこで理事長、院長に地域医療の実際を一から教わりました。高知県では高齢化が進み、高齢化社会としては全国の中で一足先をいっていると言われていています。地域格差を小さくする取り組みのひとつが、高知県救急医療情報連携システムです。患者の容態や事故状況を共有することで、スムーズで正確な搬送先の決定や搬送中の対処、受け入れ準備を支援するシステムであり、119 番受付、救急車両、病院の三者が、患者の情報と救急車両位置を共有することで、搬送先の決定から受け入れ準備までを迅速に実現しています。病院のパソコンから救急車が今どの病院に向かっているか、また救急車内の状況をリアルタイムモニターで確認できる優れたシステムに、最先端の地域医療連携の姿を垣間見ました。

これからは一人の患者をいくつかの医療機関で機能分化・役割分担する地域完結型医療の協奏の時代であり、その最先端をいく高知県での取り組みを若い医療者たちは知るべきものだと感じました。今回学ぶ機会をいただいたことに大変感謝いたします。

次に訪れた場所は、高知県唯一の有人離島、水質は日本有数の透明度を誇りダイビングスポットとしても有名な沖の島。現在島民は 150 人程度に減少しました。その島の医療を担う沖の島へき地診療所での研修はわずか 2 日間でしたが、目に映るものすべてが新鮮で心に焼きつきました。高知県はへき地医療を担うシステムとして、週に一回医師を派遣しています。診療所ではビデオ通信でリアルタイムに会話もでき、県一体となってへき地医療を担う体制が整っていることを知りました。

四国最南端、漁師の街、土佐清水市。足摺岬、竜串をはじめとし、一度見たら忘れない大自然の絶景に囲まれた街。その中核病院として役割を担う渭南病院で、最後 2 週間の研修をさせていただきました。ここで一番印象に残ったことは、理事長の地域医療に対する想いです。地域医療を護ることはもちろんのこと、土佐清水市を充実発展させ全国発信できるためと、高知県を代表する祭り“よさこい祭り”に自ら参加されています。2011 年チーム“いなん”を創り上げ、第 62 回よさこい祭りでは審査員特別賞受賞、さらには明治神宮奉納原宿表参道元氣祭にてスーパーよさこい 2015 原宿賞を受賞するチームへと、発展されました。練習風景を拝見しましたが、土佐清水の海風が涼しいなか、星空のもと壮大な音楽に包まれ踊るその迫力には、圧倒されるものがありました。地域の強さは、こういう

ところから来るのかと、土佐清水魂を目の当たりにしました。地域医療というのは、医療者側が担うという意識ではなく、街の人全体で地域を盛り上げることが基盤にあって、そこで医療が必要とされ人々を支える、という概念の変革が私のなかであったと感じています。

今回、地域医療研修でお世話になったどの病院の先生方からも、「たくさん観光しているんな景色、風景を見て感じてこい」とおっしゃっていただいた（と解釈しております）おかげで、たった一か月とは思えない程いろんな地域へ冒険しに行くことができました。地域医療は、その地域の街並み、そこで育った人々、その地に根付いている空気感、街の歴史、すべてが融合して作り上げられる事業であり、地域によって千差万別、唯一無二のものだと感じました。

高知県の皆様の地域医療に対する想い、試み、地域医療の最先端をいくネットワーク、仕組み、すべてが愛おしく、尊敬すべき存在でした。

非常に実りある一か月を経験させていただき、本当にありがとうございました。